伝える安全 生まれる安心

～リプルンふくしまの挑戦～

再生への歩み

見て、触れて、学ぶ

令和６年ジャーナリストスクール６班
リプルンふくしまの取り組みと
ロゴの由来を重ねて題字にした

富岡町にある「リプルンふくしま」は、「福島県民はじめ、日本中、世界中の人に福島の環境再生と復興の歩みを知ってほしい」「地域の方々に安心して暮らしてほしい」との想いから２０１８（平成30）年８月24日に開館した。リプルンの近くで行われている放射性物質に汚染された廃棄物の埋め立て処分について、「見て、触れて、学べる」。

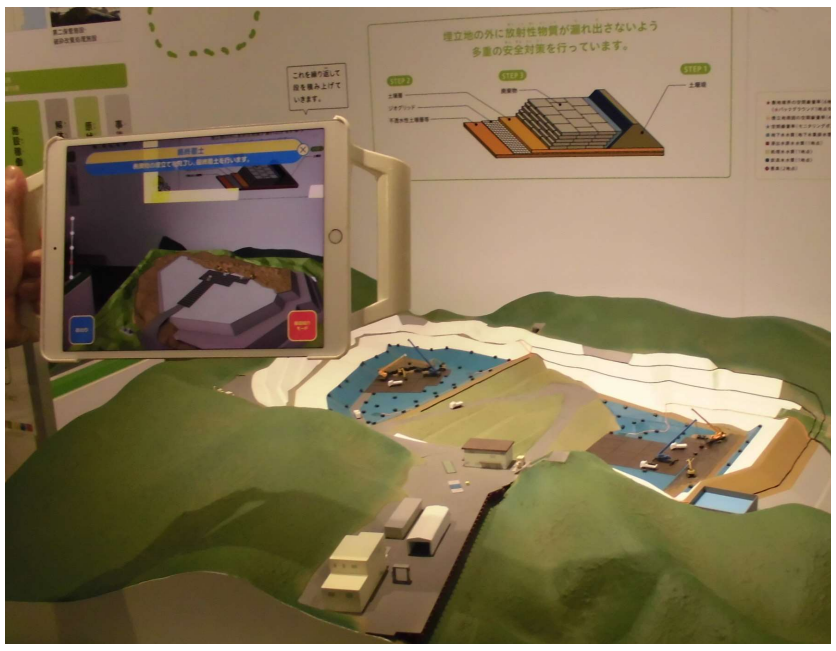
五つの展示ゾーンを説明を聞きながら見学できる。ゾーン１「ようこそ」では、安全、安心への取り組みを、ゾーン２「どのように処理していくの？」では、除去された土壌や廃棄物などが出た理由と処理する流れを紹介している。

ゾーン３「埋め立て処分とは？」では、運び出しから埋め立てまでの流れと安全対策を模型や実物で学ぶことができる。ＡＲ（現実の世界に仮想的な物や情報を表示させ、実在するように見せるデジタル技術）を使って、特定廃棄物埋立処分施設でごみの埋め立てが進む様子を３Ｄモデルで見られる展示もある。

ゾーン４「安全のために」では、安全確保への取り組みを紹介している。サーベイメータ（放射線測定器）を使って放射線量測定ができる。ゾーン５「地域のこれから」では、近隣地域の復興に向けた取り組みを動画で紹介している。

屋外のモニタリングフィールド（観察広場）では、放射線測定器を使った放射線量の測定、検査キットを用いた水質調査が体験できる。

植物について知ることのできる自然実験教室やごみの埋め立て処分技術を模擬体験できる技術体験教室も実施している。特定廃棄物埋立処分施設の見学コースもある。



ＡＲを使って埋立の様子を見ることのできる模型

徹底した環境への配慮

特定廃棄物の埋立処分事業

震災により、多くの廃棄物が発生した。中には、放射性物質で汚染された廃棄物があった。廃棄物を適切に処理するため、２０１６（平成28）年４月に環境省が旧フクシマエコテッククリーンセンターを国有化し、特定廃棄物埋立処分施設にした。２０１７年11月に廃棄物の搬入を開始した。

処分場では、①放射線量が高く、国から避難指示が出た区域で発生した災害廃棄物・住民の方々が一時帰宅した際に発生する片付けごみ（対策地域内廃棄物等）②国が決めた基準の８０００ベクレル／キログラムを超えた県内で発生した焼却灰や下水汚泥などのごみ（福島県内の指定廃棄物）③帰還した住民の方々が生活を再開した際に発生する生活ごみ（双葉郡８町村の生活ごみ）の３種類の廃棄物を埋め立て処分している。「対策地域内廃棄物等」と「福島県内の指定廃棄物」の二つを合わせて「特定廃棄物」という。

埋め立て処分する廃棄物の説明をしてくれた泉田さん

「双葉郡８町村の生活ごみ」は、震災前に使っていた一般廃棄物の埋立処分場が使えなくなったため一時的に引き継いで埋め立てている。

「対策地域内廃棄物等」、「福島県内の指定廃棄物」は埋め立てが完了しており、「双葉郡８町村の生活ごみ」は２０２７年での埋め立て完了を予定している。

放射性物質が外へ出ないようにするために廃棄物の焼却灰をセメントで固める、容器に封入したまま埋める、水を遮るシートを敷く、などの対策をしている。周囲の環境に影響が出ないように放射能濃度や水漏れなどの常時チェックを含めて九つの対策がある。

培った知識を福島に生かす

リプルンふくしまの小又智輝さんと泉田賢一さんから話を聞いた。二人は自分の原子力の知識を生かして福島のために役立ちたいという思いで県外から福島に来た。

放射線に関しては不安や危険を感じる人が多い。安全だと押し付けるのではなく、データを示し、相手に寄り添うことが大切と語った。

開設当初は不安や心配の声が多くあった。今では理解が進み、「これは大丈夫、これはダメ」と、判断できる人が増えてきているという。

小又さんと泉田さんはもっと住みよい福島になるように、できることを諦めずに続けていく。

説明してくれた小又さん

リプルンふくしま

「リプルンふくしま」という名前は、県民からの公募で選ばれた。「リプルン」とは、リプロデュース（再生）を略した言葉を若者言葉らしく「リプる」にして、親しみやすくするために、「ン」を付けた。ロゴは、復興に向けて歩む「足跡」と、環境再生の始まりとなる、若い芽を表現している。

～編集後記～

リプルンふくしまの小又さん、泉田さんの「福島の復興」への熱い想いが伝わった。自分の知らないところで福島のために活動してくれている人のありがたみを感じた。

私自身何かできることはないのか？ジャーナリストスクールで出会った仲間たちと一緒に思いの詰まった新聞を作成したことは恩送りにつながるのではないかと考えた。

「福島の復興のために尽力していただきありがとうございます。」私はたくさん感謝を伝えたい。そして自分自身も福島に貢献していく。

（班長・鈴木　麻友）

私たちが作りました

三原　千宙（富田西小５年）
野村　実礼（桜の聖母学院小５年）
西田　文那（安積一小６年）
岸本　悠（緑ケ丘中２年）
庄谷　和晃（ふたば未来学園中３年）
鈴木　麻友（東日大昌平高３年）